

赤堀川切広図【田口（栄）家1797】（一部を拡大）



【資料解説】

この図は、赤堀川拡幅工事を描いたものです。赤堀川は元和7（1621）年に下総台地を開削してできました。その後数回拡幅工事が行われ、現在は利根川の本流（栗橋～水海）となっています。この絵の作成年は明記されていませんが、文化6（1809）年以降のもものと推定されています。絵図には鍬（くわ）やもっこを使って働く人や指図をする役人の姿が描かれ、江戸時代の土木工事の様子がうかがえます。

類似資料

見沼新田開発前：堀口家1699

見沼新田開発後：武笠（寛）家1185

関東川々絵図【会田家8308】（一部を拡大）



【資料解説】

この図は、江戸時代の後期に作られたもので、関東地方の川（水色）や用水（青）の様子が描かれています。川や用水の周囲には、それらの水を利用している村名が書かれています。図中央の青色の用水が見沼代用水で、途中で流れが2つに分かれ、下流（左側）に向かって枝のように広がっています。この用水を使用している村名を読み取ることができます。見沼新田を縦に区切る黒い線は八丁堤です。